

「志を立てさせ、事を行わせて下さる神」

ピリピ2：13

堀田修一 21・12・12

I 志を持ち、事を行って下さる三位一体の神の恵み。父と子と聖霊は、神であり、一体、一つの方

1. 父なる神の志、意志「神は、実に、そのひとり子（キリスト）をお与えになった（クリスマス・十字架）ほどに世（罪人の私達）を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」ヨハネ3：16
2. 子なる神、キリストの志、意志「キリストは、神の御姿（神ご自身）であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました（神が人となられ、私達の罪の身代わりに十字架で死ぬ為に世に來られたクリスマス）」ピリピ2：6, 7
「キリストは自ら（ご自分の意志で）十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた」
I ペテロ2：14
3. 聖霊なる神の志、御業「聖霊があなた（マリヤ）の上に臨み（御聖霊の意志で）、いと高き方の力があなた（マリヤ）をおおいます。それゆえ、生まれる子（キリスト）は聖なる者、神の子と呼ばれます」ルカ1：35。「人は、水（神のきよめ）と御霊によって生まれなければ（新生＝主を信じる私達の心に、新しい命、神のご性質を与えて下さる。II ペテロ1：4）、神の国（神の支配、神の救い）に入ることはできません」ヨハネ3：5。

II 神が、主を信じる私達に与えて下さる志、意志、願い

1. 自分の罪を認め主を信じて洗礼を受けたいという志。「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うことはできません」I コリント12：3
2. 主の救いの福音、人々を救い、靈的に成長させる聖書の御言葉の真理を愛を持って伝える志
① 「私としては…あなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです」ローマ1：15
「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」マルコ16：15
i 主の時・自分の時・伝える人の時を自覚しつつ、福音を伝え、人々に罪の赦し、新しい命、永遠の命、天国で永遠に神に愛される命が与えられるように祈りたい。イエス様は、この世に人気のある政治的な解放者、メシヤになる事は、お出来になったが、その栄誉を選ばれなかった。世の栄誉を求めず、みことばを伝え、十字架ですべての人（私達を含む）の罪を負い、罪の償いを完成された。人の目には、最高にみじめな、敗北者に見えた主の十字架は、人々に真の救い、罪の償い、罪の赦し、永遠の命を与える希望の死となった。三日目に復活され、死に勝利され、主は今、弱さ、苦しみのある私達と共におられ支えて下さる。

ii 私達もイエス様の様に、世の栄誉ではなく神が喜ばれる福音を伝えたい。福音を伝え、人々が救われることは、神の国がその人の心に生まれる素晴らしい恵み。主の祈りの「御国が来ますように」には、二つの意味がある。(1)主の再臨により、神の国（原語：神の支配）が来ますように(2)現在、世界中で、主の福音が進展する事により、この地上に既に始まっている神の国、神の支配が拡大して行くようにとの祈り。世の栄誉を求める働きは、人々の心に罪の赦しと永遠の命を与えることはできない。主の福音には力がある。「福音は…信じるすべての人に救いをもたらす神の力です」ローマ1：16

- ② 「愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かって成長するのです」エペソ4：15。相手の外側の姿だけで判断し差別し愛もなく、真理、福音、みことばを語っても、相手の心に届かない。しかし、祈りつつ、まず語る前に、相手の言葉、気持ちを良く聞き、愛の信頼関係を作るなら、祈りつつ相手に語る真理、福音、みことばは、相手の心に届きやすくなる。「人はだれでも、聞くのに早く、語るのに遅く、怒るのに遅くありなさい」ヤコブ1：19。イエス様も、愛をもって（「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」ヨハネ1：14）真理を語られた。「この方は、恵み（愛）とまこと（真理）に満ちておられた」ヨハネ1：14。「愛をもって真理を語る」とは、相手の人格を神に愛される人格として受け入れるが、相手の間違っている意見、行為を認める事をせず、「もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊（愛と真理に満ちた）の人であるあなたがたは、柔和な心で（上からさばく態度ではなく）正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい」ガラテヤ6：1

3. 人生の大切な決断の時に、神のみこころ、神の志を祈り求める心

- ① 4つの事を結び合せて判断したい。i 祈り。ii みことば。iii 状況。iv 主にある人の助言。
- ② 結婚するか独身で生きるか、神のみこころ、導き、神からの志を祈り求めたい。「一人ひとり神から与えられた自分の賜物があるので、人それぞれの生き方があります」Iコリント7：7。①の4つを手掛かりに。
- ③ 進学や職業、就職等の進路選択の時、神の導き、みこころ、神からの志を祈り求めたい。
①の4つは判断の助けになる。※私への神からの志の証し。
- ④ 住まいを決める時。神の導きを祈り求めたい。「神は、一人の人からあらゆる民を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、住まいの境をお定めになりました」使徒17：26。すべてに、神のご支配、ご計画がある。※神と私達の思いは異なる事も認めつつ生きる。「わたし（神）の思いは、あなたがたの思いよりも高い」イザヤ55：9
- ⑤ 私達が、老いる時の過ごし方（家族の援助・介護施設・病院のケア）の神の導きを祈

り求める。祈りつつ、家族と福祉関係の方とも相談しておく。※私の母の証し
「協議によって計画は確かなものとなる」箴言20：18。最善の神の御心が成る事に
委ねる事と、人の分として、祈りつつ協議し計画を立てる事は矛盾しない。神に委ねつ
つ、祈りつつ備えもしておきたい。

神は、すべてを結び合せて益として下さる。ローマ8：28